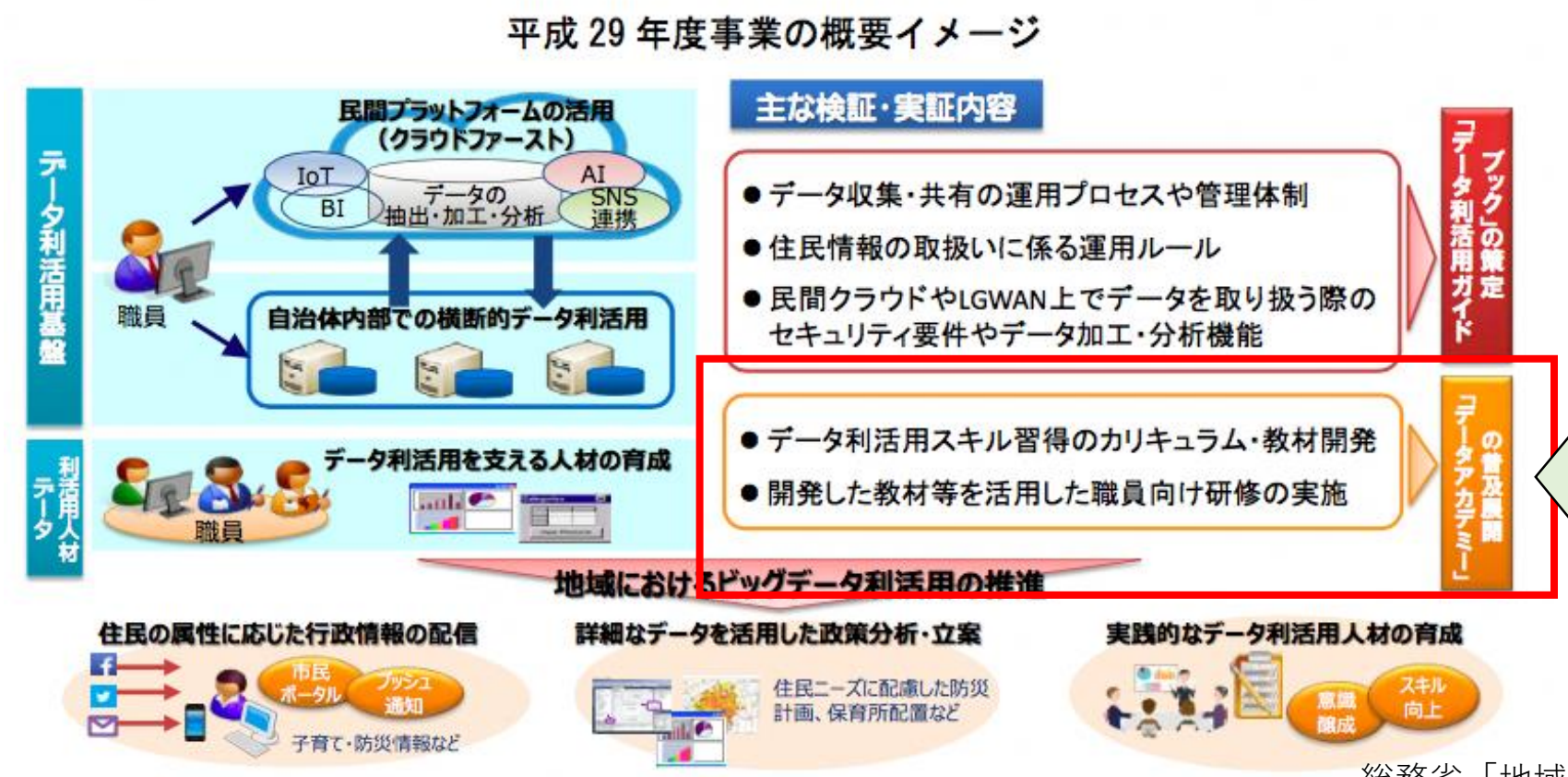
データアカデミー研修事業
2017年度

データアカデミー概要（2017年度）

- 総務省「地域におけるビッグデータ利活用の推進に関する実証の請負」事業の一部として、Code for Japanは、データアカデミーの普及展開を2017年度担当しています。



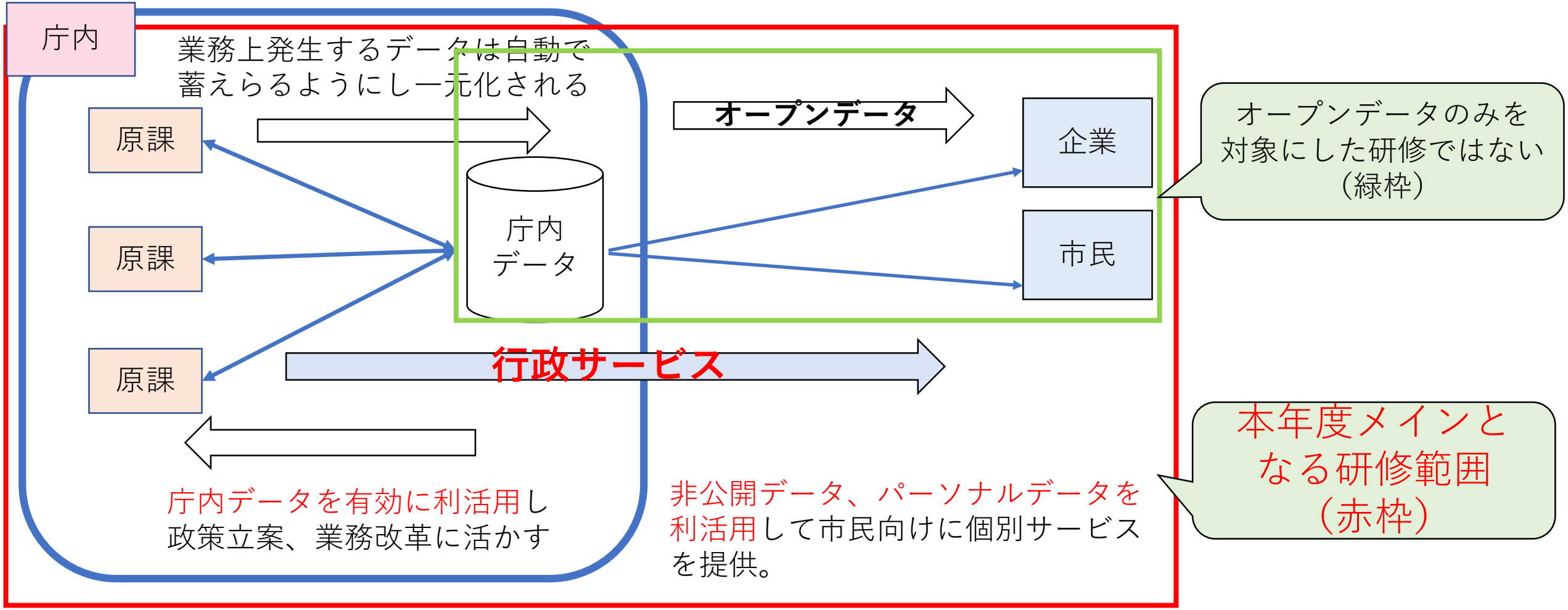
2017/11-2018/2の間にデータ利活用の研修教材の作成と、自治体での検証を実施します。

この研修を通じて庁内データの利活用を実践的に進められる人材の育成と庁内への展開、他地域への教材活用を狙います。

総務省「地域におけるビッグデータ利活用の推進に関する実証の請負」入札説明書 より抜粋

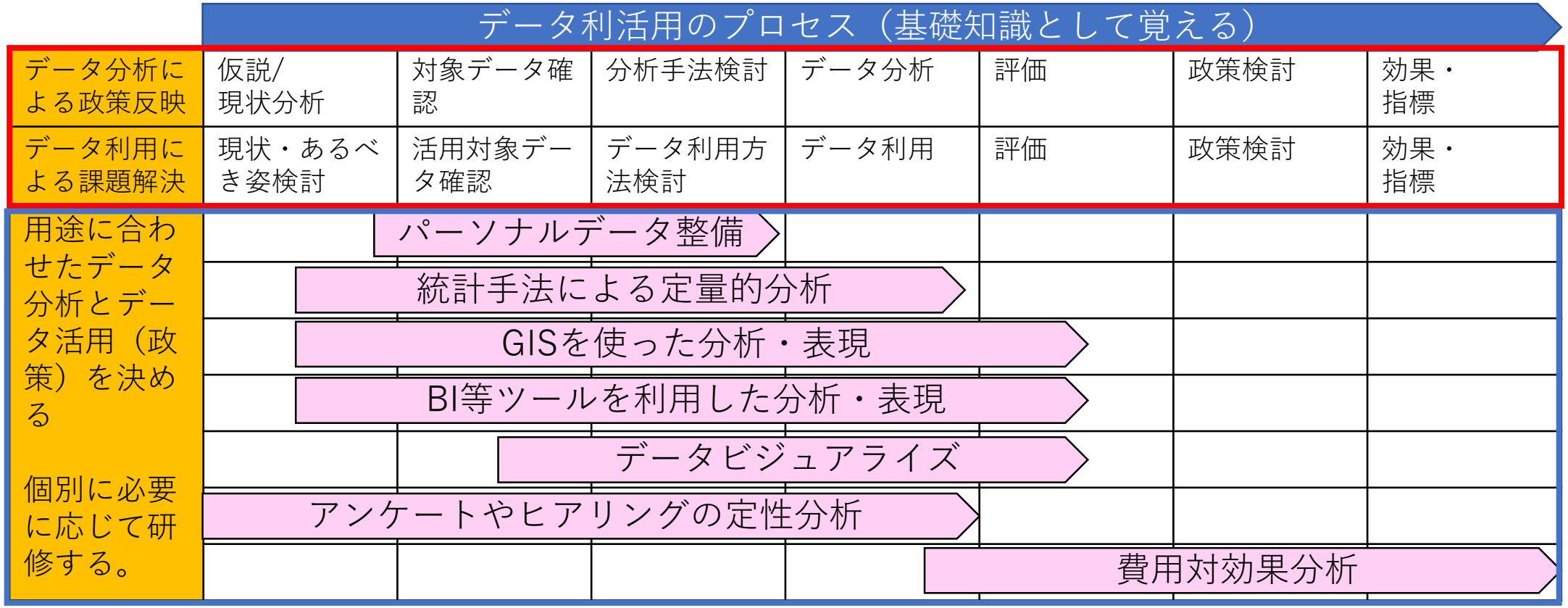
データ利活用研修の対象

- 非公開データやパーソナルデータを含む、実際のデータを利用した座学＋体験型研修が対象となります。



研修の全体像（2017年度）

- データ利活用の「２本の基本の流れ」と、課題解決に必要な個別手法・パターンを教材としてまとめます。
- 教材となる、個別手法・パターンは参加自治体の課題に合わせて作成・実施・調整します。



２本の基本の流れ

事前調査の結果、研修が必要な手法

他の手法も実情に合わせ検討

データ利活用の流れに合わせた研修

1. データ分析による政策反映の流れ
    1. 既存事業のうち課題の原因の検討と対策
    2. 新しいサービスの検討時にフォーカスする点とその効果

【実データで体験する7 Step】

①仮説 現状分析 → ②対象 データ確認 → ③分析 手法検討 → ④データ 分析 → ⑤ 評価 → ⑥ 政策検討 → ⑦ 効果指標

2. データ利用による課題解決の流れ
    1. 本来あるべき姿があり、庁内データを活用して効果を出す
    2. 庁内データが存在しておらず、共有・活用することで効果を出す

【実データで体験する7 Step】

①現状と あるべき姿検討 → ②活用対象 データ確認 → ③データ 利用方法検討 → ④データ 利用 → ⑤ 評価 → ⑥ 政策検討 → ⑦ 効果・指標

課題解決を体験しながら研修します

- 各自治体の持つ課題に対して、担当する職員とCode for Japanとで、実際のデータを使いながら、研修を進めます。

GISを使った分析、政策立案までの例（１つの課題につき、4名～6名程度を想定）

1回目（2.5-4時間）	2回目（2.5-4時間）	3回目（2.5-4時間）	4回目（2.5-4時間）
【課題の仮説分析】 ・要因となっている項目について仮説をいくつか立てる 【現状の調査】 ・現状業務の流れ、コスト、課題の確認 ・データ元、サービスの対象、実務の担当者など	【対象データの選択】 ・検証に必要なデータの確認 【GISの表現方法検討】 ・レイヤーでの掛け合わせるのか、集計結果を地域ごとに色分けするのか、方法を検討 【GISでの表示・検証】	【評価】 ・GISの検証結果から仮説を評価 【政策立案】 ・判明したことについてて、いくつかの政策パターン、機能の詳細化を検討する	【費用対効果分析】 ・実施した場合のコストと効果を算出 ・詳細化した機能単位で価値の出るパターンを確認 【指標の作成】 ・実際の効果を測る際に必要な効果項目、指標を作成

現状調査や、必要データの準備は
事前準備により短縮可能。

費用対効果分析
として分割可能

- 自治体の実情に合わせ、研修時間は調整します。

補足

- 本年度まとめた研修教材は、今後、利活用ガイドブックの一部として公開されます。
- 本年度のデータアカデミー研修の内容について質問があればCode for Japanにお問い合わせください。